

学校評価表(中間評価)

	重点目標 (中長期的)	1. 国際親善文化観光都市である地の利と、英語科・国際文化科で培われた本校の特色を最大限に活用するとともに、地域・保護者・学校が、本校のあり方・ベクトルを一にすることにより、生徒を支え・支え合う学校づくりを目指す。 2. 生徒の着実なる基礎学力の向上を図ることを基本に据え、生徒会活動・部活動・校外活動の「活動」、友人・教職員・保護者・地域との「交流」を通し、人間としての幅広い魅力、適応性ある社会力、人生を楽しむ生命力を融合させた生徒自らの人間力の獲得を目指す。	中間評価		
今年度の重点目標			中間評価		
①	生徒・教職員・保護者・地域住民など、学校にかかわるすべての人が、日々「プラス・ワン」を実践することにより、関係者の満足度の高い「いい学校」を創る。	中間評価			
②	学校を内外に開くことにより、風通しをよくし、情報や意識の共有化を図るとともに、軽井沢の地の利を生かした地域・社会との連携や交流を積極的に図る。				
③	生徒一人ひとりに、基本的な生活習慣と基礎学力の定着を図るとともに、教育活動全体をとらえて、次世代を担う社会人となるために必要な、主体性、自治能力、人間関係構築力等の伸長を図る。				
④	地域の人々に支持される、魅力ある学校の将来ビジョンを構築する。				
領域	対象	評価項目(活動目標)	評価の観点	中間評価	
教育活動	教育課程	④	特色あるコース選択科目の再設定	進路希望に応える選択科目を設定し、コース制授業を充実できたか。	平成25年からの新教育課程の本格実施に向け、平成23年入学生、移行措置である平成24年度入学生、そして平成25年度入学生の教育課程を確定した。今後は、学校設定科目「課題探究」に対する各教科の取り組みについて来年にかけて研究していく。 来年度の新2・3年次の選択科目を一部変更し、選択科目調査を実施中である。
	進路学習指導	③	家庭学習の定着による学力の向上	宿題・課題を出すことにより家庭での学習を支援することができたか。	係主導で長期休業時の家庭学習の推進に努める。学年ごとにSHR時に課題(英語・漢字・一般常識等)を設定し、家庭学習を奨励している。1学期、家庭学習時間調査を初めて実施した。今後も継続して実施する予定である。
		③	進路実現に向けたきめ細かい指導	適切な情報提供と多様な企画、面談等による進路サポートができたか。	迅速に進路情報を提供している。7月には、面談指導で大学・専門学校や職安から5名の外部講師を招請し、面接のポイントの浸透を図った。
		③	わかりやすい授業をめざした改善	授業公開、授業研究会を通して、授業力を高めることができたか。	各教科内で日常的に授業互観を積極的に実施するとともに、全職員で互観週間(9月12日～22日)を設定し研修を深めた。11月に国語、地公、数学の公開研究授業を実施する。他教科も今後実施予定である。
	生徒指導	①	心の安定・満足感が持てる学校生活の実現	問題行動を未然に防止する「予防教育」と指導が充実できたか。	担任や各部署と連携して、生徒の生活状況を早期に把握し、必要に応じて指導したり、ホームルーム連絡を行ったりして、問題行動を未然に防止するよう努めている。 また、10月下旬から11月上旬には、冬の服装指導を生徒会と一緒に実施する。
				学校生活への適応や自己実現に関する援助や指導が行えたか。	生徒の出席状況やその他様々な生徒の状況について、担任や各部署と連携して、日常的な相談のできる指導体制を組んで、適切な援助や指導が行えるよう努めている。
		③	交通安全の徹底	交通法規や校則を遵守させ、交通事故防止を図ることができたか。	交通法規や校則の遵守、自転車の運転マナーの向上について呼びかけ、事故や内規違反がないように指導している。本年度上半期、重大事故は発生していない。
		③	自覚と責任ある行動の実現	高校生としての自覚と節度ある行動を家庭と連携して指導できたか。	6月に防犯交通講話を実施した。軽井沢警察署のご協力により、高校生としてふさわしい行動や交際、高校生に気をつけて欲しいことなどを全校で学習する機会を設けた。引き続き、思いやりと責任感のある自立した行動がとれるよう指導していきたい。

領域	対象	評価項目(活動目標)	評価の観点	中間評価
教育活動	特別活動	④ クラブ活動の活性化に向けた検討	クラブ活動全体の活性化を図るためにクラブの在り方を再検討できたか。	4月、9月に活動状況・所属生徒数の調査を実施し、その結果をもとにクラブの精選・望ましいクラブ活動・指導のあり方について議論を開始した。年度内に複数回、全職員で検討する場を設ける予定である。
		③ 朝読書の実施	本に親しむ機会を作ることができたか。	朝読書用のプリントを配付し、朝読書への参加を促した。春の読書週間でアンケートを取った結果、きちんと朝読書に取り組んでいるクラスもあればなかなか時間が取れないクラスもあるとのことだった。
	人権平和	③ 豊かな人間性を備えた生徒づくり	昨年に引き続き、「いのちの学習」を推進し発展させることができたか。	12月の「いのちの学習」推進月間に先立って、5月12日には人権平和映画「パートナーズ」を鑑賞し盲導犬と視覚障害者に対する理解を深めた。また9月22日には人権講演会を開き、「いのちの尊さ」について全校で学んだ。また、12月の「いのちの学習」推進月間に向けて、11月には職員研修会を実施する予定である。
	学校保健	③ 心身の自主的健康管理の推進	自らの健康について関心もてる取組、機会を設定できたか。	年間計画に沿い、2種類の心肺蘇生法講習会を行った。また2学年に性教育(エイズ)講義を実施し、3学年に性教育講話を実施した。1学年に喫煙防止教育講話を実施する予定である。
	営繕美化	① 校地内外の環境美化の徹底	学習環境の整備と校地内外の美化に取り組むことができたか。	週1回の校地内の外清掃の他、LHRで各学年1回ずつ町内のゴミ拾いに取り組んだ。また1学期の懇談期間中に、2日に分けて廊下の汚れ落としとワックスがけを行い、懇談期間から2学期始めにかけて3年と2年の教室カーテンの洗濯を行った。今後、スノコ作りと、1年の教室カーテンの洗濯等を予定している。また、各学年もう1回ずつ町内のゴミ拾いを計画する。
学校運営	地域との連携	① 三者でつくる軽高会議の発展	三者協働で「学習環境」を改善するための話し合いができたか。	10月25日の軽高会議に向け、全校生徒・職員へのアンケートを実施し、生徒会でも検討を行った。その結果をもとによりよい「学習環境」について軽高会議で話し合いがなされるよう、準備をした。会議のご意見をもち帰って検討し、次回の軽高会議につなげたい。
		② 魅力的な授業の企画と情報の発信	大学・地域と連携した魅力的・効果的な授業が企画できたか。	長野大学の高橋准教授のご指導の下、「環境」の授業で大学の学有林や離山でフィールドワークを実施した。美術の授業では、地元の軽井沢彫師飛田和氏による軽井沢彫の実技指導や、軽井沢アートコントラダと連携し、飯田氏による藍の生葉染めの授業、総合芸術では地元在住の作曲家周防氏の指導によるCM作り、家庭科では地元のピザ回し世界チャンピオン赤荻氏によるピザ作りの実技指導が行われた。また、8月に町の中央公民館で行われた「軽井沢国際森林年記念シンポジウム」の展示発表に本校の「環境」野外授業に関してのパネルを出品した。
	④	HPを通して、教育活動を定期的に発信することができたか。	授業日は毎日更新し、内容面の充実を図った。具体的には、「軽井沢高校ならではの取組」・「新聞報道等に見る軽井沢高校」欄等を今年度新たに設けた。また、学校長ブログとの連動を図った。保護者の要望に応じて、メールによる保護者への情報発信を行っている。メールアドレス登録者数は約140名となり全校の半数以上となった。	
ビジョン	②	④ 特色ある教育活動の充実	講演会や学習合宿など魅力ある事業展開を行うことができたか。	2年生国際文化科の英語キャンプを9月に実施した。県下のALTやKGS(軽井沢ガイドサービス)と一緒に、ホテルでの接客の対応等、観光英語について学んだ。1年生の国際文化科希望者を含めた国際文化科講演会を計画中である。また、1学年の学習合宿・英語合宿は2月に実施を計画している。
	④	④ 魅力ある学校の将来ビジョンの構築	校内研修会等を行い、魅力ある学校づくりに努めることができたか。	9月に上田養護学校の万年先生を講師に迎え特別支援教育の校内研修会を、10月にはKJ法による「魅力ある学校づくり」についての校内研修会を実施した。また、10月に本校を会場に軽井沢中学校職員との交流会を実施し、授業参観、全体会、教科・課題別の分科会をもち、中高の接続や地域の子どもたちをどう育てるか等、意見交換を行った。